

文温の絆 先人の叡智に学ぶ

第23回 堀内さんと愉しむ四字熟語

「風月同天」

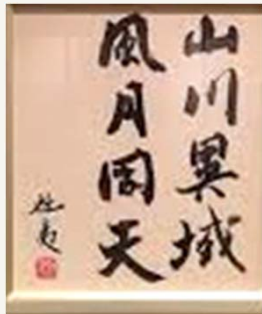
ふうげつどうてん



文・写真:堀内 正範(ジャーナリスト・元朝日新聞社「知恵蔵」編集長)

日々暮らしている風土は異なっていますが、見上げる夜空の美しい月への有情はみな同じです。どこにいてもお互いを思う友情にかわりがないというのが「風月同天」です。

昨冬突如、新型コロナウイルス（新型コロナウイルス）が湖北省武漢市に発出して、春節のころ中国全土に感染が拡大するに及んで海外でも注目され、渦中にあった武漢市には日本各界から救援の医療物資が贈られました。日本青少年育成協会（中国語検定HSK事務局）は、湖北高校などに2万枚のマスクや体温計の支援をしましたが、その箱に記したのが「山川異域、風月同天」の8文字でした。



日本画家東山魁夷による行書「山川異域、風月同天」

この8文字がネット上でたいへん共感を呼んだのです。日本をはじめ防疫物資を送ってくれる「山川異域」の国々の友人がいる。中国の自分たちは、人類共通の敵である「病毒」の撲滅を成功させて、命運を共にするすべての人へ闘いの勝利を示せねばと感じて、支援してくれる「風月同天」の人びとと心情を共有したのです。その後の武漢市は徹底したPCR検査によってコロナ封じ込めに成功しています。



日本からの支援物資の箱に記された「山川異域、風月同天」8文字の添え書き

この8文字は1300年前の上古時代に、仏教移入をめざした長屋王が遣唐使に託した1000枚の袈裟に「山川異域 風月同天 寄諸佛子 共結来縁」（出典は『全唐詩「卷732長屋」』から）と16文字の偈語（詩）を刺繍させたもの。揚州大明寺にいた鑑真和上はこれを知り仏縁を深く感じて渡海の意を決したといわれています。（『唐大和上東征伝』から）



出土した木簡



754年に渡来した鑑真和上像（奈良・唐招提寺）



鑑真和上がいた揚州大明寺



鑑真大師像回国展 中国人民郵政 1980



奈良市二条大路南の邸宅跡。出土した木簡から長屋王邸跡と知られた

このたびの「山川異域、風月同天」は民衆同士の熱い絆の証しとして、世界中の民衆の心は一つというメッセージとなり、四字熟語になって広がったといえるでしょう。「コロナ禍」が収束した後も「風月同天」は日中友好交流のあいさつとして「一衣帯水」とともに引用されることになるでしょう。

一言添付。鑑真と逆に難破して長安へもどり帰国できなかった安倍仲麻呂の「三笠の山の月」（右上）を「同天」に加えておきましょう。